

手をつなぐとも

等友

S
60・10・1生

〒111-0041
台東区元浅草
2-10-17
3841-2844
真宗大谷派
勝龍山
等覚寺
住職
朝倉創

平成31年1月
第107号
責任編集
朝倉 翔



新年会でジャンケン大会

わたしが両手をひろげても、お空はちつ
ともとべないが、とべる小鳥はわたしの
ように、地べたをはやくは走れない

わたしがからだをゆすつても、きれいな
音はでないけど、あの鳴るすずはわたし
のようにたくさんうたは知らないよ

すずと、小鳥と、それからわたし、みん
なちがつて、みんないい

「わたしと小鳥とすずと」

金子みすゞ

住職から一言

あらためまして本年もどうぞよろしくお願い致します。今年は元号が変わる年ということで、どんなものになるのか楽しみである反面、西暦と元号の使い分けにますます頭を悩ませるのでは・・・とも心配しております（笑）。ちなみに仏教でも仏暦というものがあり、お釈迦さまが亡くなった年を基準に数えるものです。今年は二五六二年ということになります。ですから西暦二〇一九年でもあり平成三十一年でもあり新元号元年でもあり仏暦二五六二年でもあるわけです（笑）

さて暦の話はこのくらいにしまして、新年という初詣に行かれる方も多いのではないかと思います。有難いことに年末年始に等覚寺にお参り来る方も多くいらっしゃいます。そこでよくなぜ浄土真宗のお寺ではお守りを

売っていないのかと聞かれます。そこで逆に皆さんにお伺いしたいのですが、お守りの効力をどのくらい信じていますでしょうか。もし交通安全のお守り買ってぶら下げていたのに、事故にあったとして、その神社なりお寺なりを訴えたりしますでしょうか。学業成就のご祈祷受けたのに受験不合格だったりした時に「〇〇天神のせいだ！」と本気で騒ぐ人はいますでしょうか。皆さん気休めに過ぎないとかわかっているのです。わかってはいるけど、何かよくないことが起こると厄年のせいにしたり、名前の画数のせいにしたり・・・。良いことは素直に受け入れるけれど、悪いことはなかなか自分ごとに出来ない。そういう私であるということをしっかりと見つめ、お守りやまじないに頼ることなく、どんな出来事もわたしの尊いいのちであったと受けとめていけるような生き方をしていきたいものですね。

行事報告

◎報恩講

私たち真宗門徒にとっていちばん大切な行事、報恩講を昨年十月にお勤めいたしました。簡単ではございますが、住職の法話をご紹介します。

今日は報恩講ということで、途中読みました表白にも、親鸞聖人が亡き後三十三回忌から、孫の世代の時に覚如上人という方が勤めたと言われています。それで、そこから七百年以上経つ今でも毎年毎年全国二万以上の浄土真宗のお寺だけでなく、ご門徒のおうちのお仏壇の前でも勤まってきた、そういう会がこの報恩講なんです。本堂の右奥に親鸞聖人いらっしゃるんですけど、今から七百五十数

年前に亡くなった方のご法事をつとめるというのはすごいことだと思うんです。去年来ていただいた高德寺の新井先生もお話になりましたけど、顔も知らないおじいちゃんの法事を勤めている。しかも八百年にもわたって。これはすごいことだと。ちなみに今日皆さんの中に親鸞聖人の命日だと、これは駆けつけずにいられないと思って来られた方いらっしゃる、いますか？なかなかいませんよね。もちろん、ずっと昔から親鸞聖人が伝えてくださった浄土の教えというのが本当にありがたい、自分にとって本当にこの教えがあって良かったと、心から思えてきた方々によって、この報恩講というのが勤まってきたんだということは、是非大事なことでして押さえて行きたいなと思っています。今日いらっしゃるものは三十数名ですね、お盆とか春のお彼岸はもうギューギューですから、焼香すると煙がもくもくで前が見えないぐらいになります。

まあこれは仕方なくて、やはり日本人は昔からお盆お彼岸はご先祖を思ってお参りをしてたからお寺に来ようかって気になるんですよ。でも今申し上げたように報恩講となると、報恩講ってそもそも何なんだろうと、親鸞聖人の命日かーまあいいかな、という気になるのかなと思うんです。ですから今日来てくださった方々は理由はどうあれ本当にありがたいなと私は思うわけですね。

さて、つい先日副住職に次男が生まれ、人が誕生するってどういうことかなとこの世に命をいただくとはどういうことかなと改めて考えるきっかけがありまして、今日はそのあたりを話そうと思っております。人として生まれて私たちはちゃんと生きてる。みなさん、ちゃんと生きてますよね。大丈夫ですか？これはブラックジョークになりますけど、本当に生きるということはどういうことなのか。

か。生きる上でみなさん、大事にしてるものってなんですか？たとえば家族だったり、または通帳のお金を見るのが楽しいとか、仕事をされてる方は仕事がうまくいくこととか、社会的な地位だったりとか、そういうことを大事だなと思って生きている方も多いかもしれない。でも今申し上げた家族だったりお金だったり仕事だったり地位だったり、そういう事というのは、お釈迦さまがおっしゃるには、諸行無常、世の中全てのものに常なるものはないんだよ、と。ですからいつか形を変えて無くなっていく、そういうものを大事にしている人は、それを失った時にどうなるかという、倒れたりもろくも崩れてしまう。ですから仏教では、諸行無常ということをお前提としなさいと、本当によりどころとすべきは不変の教え、変わらない教えですよと説くわけですね。じゃあ生きる意義って何なんだろうと、生きる意味ってよくいいますよね、

哲学でもずっとそうですね。人が生きるってどういうことだろうと人々は話し合います。どうですかみなさん、生きる意味を自分にはわかってるよって方いらっしゃいますか？

生きる意味というのはなかなか見えないわけですね。その時々にはこれかなと思えても、さっき言ったように諸行無常という前では、どれも違うかなあってなってしまう。その上、人間は答えを求めたがりですから、それをわかんないわかんないって思ってもなかなかわかんない。これどうなるかっていうと、例えば電車。みなさん電車に乗りますよね。電車の中でみなさん、なにしますか？そうスマホをいじってますよね。目的の駅間際になって、あっ、降りなきゃとなつてスマホから目を離す。そんな方が多いと思うんですね。電車に乗って目的地に着くということは、人生に例えられるんじゃないでしょうか。人生の終着

駅、死に向かって歩んでいる。これはまぎれもない事実ですね。終着点に向かって私たちはスマホをいじってるんじゃないかっていうことを今日お話したいわけです。スマホをいじって日々時間を過ごしてはいるけれど、ようやく死が、駅が目の前になって、あれ？何をしていたんだっけ、気付くとスマホをいじっていただけであつという間に……。そういう生き方を私たちはしてるんじゃないかと。目の前の日々の家事、学校での勉強に追われて、または仕事に追われて、目の前の事に追われていつのまにか本当に大事なことを探そうとしないままに日々日々過ごしている。そしてはたと気付くと死というものが目の前に来てる。そういう時に私の人生なんだのかってことになりかねない。スマホというのは便利でひまつぶしにはもってこい。私も多分にもれず一日の何時間もスマホを見ているわけで人の事は言えないんですけども、それ

は生き方においてもそうやってきてるんじゃないかということですね。じゃどうしたらいいのか。スマホをいじる以外になにかあるんですかってことですが、ここで真宗の教えに尋ねていききたいと思います。

NHKのこのころの時代という番組はご存知ですか？宗教者を呼んでお話を聞くという番組です。平成三年の番組にですね、長崎の社会教育長を勤められた竹下先生という方がいらっしゃった。この方は浄土真宗の教えに生きられた方。この方がおっしゃってたのが、人間というのは二度生まれるんだということなんです。一度目の誕生というのは、人としてこの世に生れてくること。そして二度目の誕生というのが、いのちに目覚めた時ということなんです。つまりスマホから目を離れた時って言い換えれるのではないですかね。一回生まれただけでは本当の人間にはなれてないんだとその先生はおっしゃっていま

した。浄土真宗の方ですから二回目の誕生というのは、仏法（仏さまの教え）にご縁があって、念仏を申す身となった時、心から喜んで念仏を申す身となった時に二度目の誕生と言えるんじゃないかとおっしゃってました。あともう一つ。もっと古い例えで言うと、お釈迦さまの教えで、ガンジス川のほとりをお釈迦さまとアーナンダという弟子が二人で歩いている時のことです。お釈迦さまがアーナンダに言うわけですね。アーナンダよ、私が今ガンジス川のほとりの砂をつまんだ。この世に命をいただくというのはどういうことか。ガンジス川の全部の砂ほどの命がこの世に生れているが、その中で人として生れたのがこの一握りの砂だけなんだとおっしゃった。次に手をひらいて、砂を落としたうえで爪の間に残った砂を指し、この砂だけが教えに出遇って本当の意味での喜びを見いだせた人の数なんだとおっしゃったわけなんです。目

覚めて生きるということですね。

あともう一つ、今日の主役である親鸞聖人です。親鸞聖人ご自身も同様の経験をされています。この教えこそがみんなが救われる教えだと出遇った感動をしたのが、二十九歳の時です。その時の感動を、「しかるに愚禿釈の鸞、建仁辛の酉の暦、雑行を棄てて本願に歸す」（『教行信証』後序）という言葉に残してあるんですね。雑行というのは今申し上げたスマホを見ることなんですよ。またはですね、日々の仕事とかもそうです。そういうことを一切やめてということではなく、そういうことを大事にするのをやめてということなんです。本願（阿弥陀仏が人間誰しも平等に救おうという願い）にお任せしていきますということをおっしゃってるわけですね。この時のおっしゃった理由というのが、浄土宗を開いた法然上人との出会ったわけですね。法然上人から阿弥陀さんを中心とする皆が平等

に救われていくという浄土の教えを聞いて、この言葉を残しているのです。

またはですね、愚禿抄（ぐとくしょう）という書物の中で言っているのが、「本願を信受するは前念命終なり。」本当に大事なことに気付いた時に、前念というのがいままでの自分の思いということです。私たちは自分よりどころとして自分の考えが確かだと思っ

て生きています。自分の思いと言うのが命を終える。自分が確かだと思っていたことが壊されると言ってもいいかと思えます。これらの言葉が二度目の誕生を表すんじゃないかなと思うわけです。だから私たちも、どうしても日々の事に追われて、何のために生まれて何のために生きるのか、何が喜びであり何が幸せなのか。アンパンマンのテーマソングですね。そういうことをなかなか考える機会無く、日々私たちは過ごしている。ですから二度目の誕生と言うのを今こそ私たちはしてい

かなきやいけないんじゃないかなと思います。命の本当に大事なところに目覚めていけない限り、このいただいた命というのが、本当に意味のあるものとして輝いていかない。ですから赤ちゃんが生まれておめでどうって言うだけじゃなく、あなたも生れなさい！目覚めなさい！って仏さまから言われてるわけですね。

(法話 釋創龍)

◎旅行会

平成三十年七月一日二日で等友旅行会を開催いたしました。目的地は焼津黒潮温泉。今回も笑顔いっぱいの日間でしたので、写真で紹介させていただきます。



さあ出発！



ソフトクリームに舌鼓



お茶詰め放題！



温泉のあとは宴です



老舗丁子屋でとろろごはん



世界遺産の三保の松原へ

お葬式は必ずお勤めしましょう

最近、親族を亡くした知人からこんな質問がありました。「亡くなった本人が葬儀をやらなくていいって言ってたんだけど、本当にやらなくていいのかな。遺言だから叶えてあげたいんだけど、遺族としてはきちんと送ってやりたいし…。」本人が亡くなってしまっているとは判断が難しいところですよ。今回は葬儀の意義をあらためて見直し、この質問について考えてみたいと思います。

火葬場に午後遅い時間に伺うと、棺の横にお一人しかいないでさらにその方もどこかよそよそしい、そんな状況に会う事が多々あります。これはどうやら身内のいないお一人の方が亡くなられた場合に、役所から依頼された葬儀屋さんの担当者が火葬しているようです。これを直葬といいます。この直葬を選択される方がなぜか少しずつ増えてきたとい

います。葬儀はお金がかかるというイメージからだそうです。たしかに葬儀の祭壇に生花を多く使ったり大きなものにしたりとそれだけお金がかさんできます。

このように、亡くなった方の意思という点と費用の点から葬儀を敬遠されるようになってきているようです。

では実際はどうでしょうか。まずは費用の方から。葬儀中に掛かってくる費用は葬儀屋さんによってかなり違うのが実情です。お別れの生花が足りなくなるから、とか、お呼びする人数にしては祭壇が小さいのでは、とかいろいろ理由を付けてなるべく豪華な式を勧めてくる葬儀屋さんもあるようです。ですからぜひ葬儀屋さんは時間のあるうちから見積もりを取ってみるのも一つの手です。そして等覚寺ではお寺での葬儀もお勧めしております。もともと本堂にはご本尊が安置され祭壇もあります。つまり、一般的なホールで行う

よりは費用も軽く済むと思います。このように費用を抑えた葬儀の方法はいくらでもあるわけです。

そして亡くなった方の意思という点。これには葬儀の意義を考える必要があります。なぜ昔から通夜や葬儀を行ってきたのかというと、そこには残された人にとって大事な意味があったはずです。通夜葬儀は決して亡くなった方のために行うものではありません。むしろ大事な人を亡くした方にとって、仏さまの教えに触れ、いずれ必ず死にゆくこのいのちを生きるとはどういうことか、あらためて見つめなおす大切なご縁となります。つまり、葬儀は残された方が主役なのです。ですのでもし皆さんの中に、「自分が死んだ時は通夜葬儀やらなくていい」とお考えになっている方がいらっしゃるとしたら、それは大きな勘違いですし、それこそ残される人の大切なご縁を奪うという行為になりかねません。そし

てこの考え方から、永代供養墓以外の等覚寺の墓地をご利用の場合は、葬儀を勤めずにご納骨することはできません。

◎通夜や葬儀はお金をなるべくかけないで行うことも出来ますので、お気軽にご相談ください。また、事前にご自身の葬儀についてのご希望やお布施について、事前に承ることも出来ますので併せてご相談ください。



参加者募集中！

○等友旅行会

今年も七月頃（予定）に開催予定です。今年は京都のご本山に上山という話も出ていますのでお楽しみに。京都で行きたい所もありましたら是非お声掛けを。

○勉強会

仏教入門＆なぜなに真宗

毎月第二日曜日（行事の月以外）

午後二時～

場所 等覚寺



備忘録 ～お焼香作法～

○お焼香のタイミング

お勤め中に声が掛かりますので、それまでお待ちください。順番には決まりはないので、施主の方から前に出てご焼香ください

○お焼香作法

・焼香机の前に進み、合掌せずにご本尊を仰ぎ見ます。赤い香盒（香入れ）の蓋を開けて香盒の右に置きます。

・右手でお香を二回、香炉にくべます。（お香を額に頂くことはしません）お香の乱れを指先で直してから「南無阿弥陀仏」を称えて合掌礼拝をします。

・自分の後にお焼香する方がいれば蓋はそのままだにし、最後であれば蓋を閉めて自席に戻ります。

備忘録 ～法事の準備～

○まずはお寺へ日程連絡

回忌の確認をし、ご家族で法要希望日をお決めになりお早目にお寺へご連絡ください

○当日必要なもの

- ・お布施
- ・お花代（本堂にお飾りする
お花代で、一万円の実費）

○ご希望によってお持ちください

- ・お供物
- ・過去帳やお位牌
- ・遺影（小さいもの）

○服装は平服でも結構です。

（ご参加される方同士でお話しされてお決めください）

※お寺へお包みいただく表書きは全て「布施」と書いていただければ結構です。浄土真宗の場合は「読経料」

「霊前」という言葉は用いません。

備忘録 ～お葬式について～

○事前のご相談もお気軽に

亡くなられた後ではバタバタとしてゆつくり検討する時間がありません。お寺にご連絡いただければ葬儀までの流れなどご不明、ご不安な点のご説明もさせていただきます。

○葬儀の場所

基本的にどちらでも伺わせていただきます。遠方でも泊まりがけでお勤めさせていただいておりますので気にせずにご依頼ください。また、可能な方はぜひお寺で葬儀を。故人が生前ご縁のあった等覚寺の本堂で、あたたかくおごそかな葬儀をすることができます。

○葬儀の布施

この時お預かりする布施は通夜葬儀のお勤めの対価ではありません。亡くなった時をご縁にお寺の護持のためお納めいただくものです。どうぞお気軽にご相談ください。

備忘録 くご納骨についてく

〇くご納骨のみはお受けできません

一般の墓地をくご利用の場合、浄土真宗の教義に則つて、葬儀式をお勤めしてからのかのく納骨となります。（永代供養墓は除く）
式のやり方のく希望等く相談に乗れる部分はありますので、必ず火葬前にく連絡ください。

く披露

等友へのか懇志

鳴海恵三様 高橋健治様 加藤伊知郎様
浅井京子様
（順不同）

いつもく支援いただきましたして、誠にありがとうございます。この等友誌や等友会は、こうしたく支援から成り立っております。

編集後記



こんにちは！釋翔雲です。新年が明けたと思つたらあつという間に二月・・・。本当に月日が経つのは早いと実感させられる年末年始を過しておりました。そして五月になると新たな時代が始まりますね。どのような元号になるのでしょうか。この等友の予定表を作りながら、今年の予定が途中から違つ元号になるなんて、と不思議な感じがしました。

さて、少し記事に書きましたが現在旅行会の目的地を検討中です。ひさしぶりに京都の本山の東本願寺へお参りに行こうかとも思っておりますので、ぜひぜひお楽しみに！また、今後どこか行きたい場所があればお気軽にく意見くださいね。

平成三十一年行事予定

三月十八日～二十四日 春季彼岸

三月二十一日(木) 春季彼岸・
永代経法要

七月(未定) 等友旅行会

七月十三日～十六日 お盆

七月十五日(月) 盂蘭盆会法要
十時半～ 初盆の方
十三時半～ 一般の方

九月二十日～二十六日 秋季彼岸

十月二十七日(日) 報恩講

◎お気軽にご参加ください。

平成三十一年年回表

一周忌	平成三十年
三回忌	平成二十九年
七回忌	平成二十五年
十三回忌	平成十九年
十七回忌	平成十五年
二十三回忌	平成九年
二十七回忌	平成五年
三十三回忌	昭和六十二年
三十七回忌	昭和五十八年
四十三回忌	昭和五十二年
四十七回忌	昭和四十八年
五十回忌	昭和四十五年
七十回忌	昭和二十五年
百回忌	大正九年